

個人旅行における宿泊実態と農泊選択の可能性

Actual Condition of Accommodation in Private's Travel and Possibility of Choosing Nohaku (Farm stay)

○齋藤 朱未* 原田 絵梨佳*

○SAITO Akemi* HARADA Erika*

1 はじめに

2016 年 3 月に策定された「明日の日本を支える観光ビジョン」では「滞在型農山漁村の確立・形成」が位置付けられ、農林水産省は農泊を中心とした都市と農山漁村の共生・対流を推進することとした。インバウンドを含む観光客を農山漁村に呼び込む重要な柱として農泊を位置付け、ビジネスとして活性化を図ろうと将来展望を掲げている。しかし、そもそも観光客を農山漁村に呼び込むためには、他の観光地とは異なる地域らしさ、特異性を示すことやどのような条件であれば農泊を宿泊施設として選択してくれるのかを把握する必要があるものの、それらの点が十分に把握されているとは言い難い。

そこで、本報告では個人旅行として京都市を訪れていた旅行者を対象に街頭でアンケート調査を行い、旅行時の宿泊実態について把握した。また、京都市内で外国人旅行者の利用が増加傾向にある民泊とゲストハウスを農泊の比較対象として取り上げ、それぞれの宿泊施設における利用有無や利用条件について把握することで、個人旅行における農泊選択の可能性について検討した。

2 調査方法

街頭アンケートは 2018 年 10 月 15 日～11 月 4 日において観光地「下鴨神社」最寄の出町柳駅から下鴨神社参道に向かう葵橋付近にて実施し、20 歳以上の旅行者 103 名（男性 48 人、女性 55 人）から回答を得た（図 1）。アンケートは大きく 4 つに分かれており、「旅行時の宿泊実態」として旅行先や宿泊先選定方法等の傾向を問うた。また「民泊」「農泊」「ゲストハウス」を取りあげ、その利用有無や利用意欲等について問うた。

3 旅行時の宿泊実態

まず回答者の旅行頻度を把握するため 1 年間における旅行回数とその際の宿泊日数を問うたところ、全体として「年 1 回 1 泊」の旅行を楽しんでいる傾向にあった。また、旅行先を決定する際の決め手について「観光スポットが多い」等の 10 項目を 1 位～3 位の順位付けで回答してもらった（表 1）。その結果、最も重視されていたのは「観光スポットが多い」（51.5%）であり、2 位、3 位を含めても 85.4%と最多であった。また 2 位は「料理」（39.8%）、3 位は「宿（ホテル・旅館）」（30.1%）がそれぞれ重要とされ、旅行先の決め手宿泊施設自体もあげられていることがうかがえた。

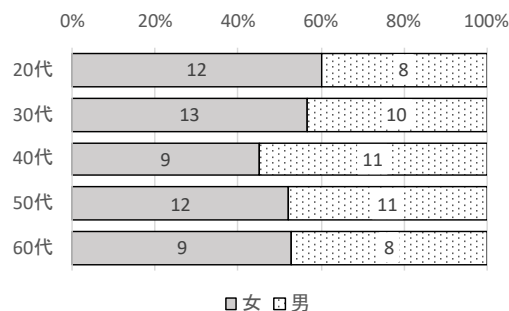


図 1 回答者属性
Fig.1 Outline of Respondents

*同志社女子大学生生活科学部 Department of Human Life Studies, Doshisha Women's College of Liberal Arts
【キーワード】農泊／宿泊実態／民泊／ゲストハウス

4 民泊・ゲストハウス・農泊の利用有無と利用条件

回答者に対し、民泊・ゲストハウス・農泊のそれぞれにおける利用有無について問うた。その結果、ほとんどの回答者が3宿泊施設を利用したことがないことが明らかとなった(図2)。そのうえで農泊については、「利用したことがないが、興味はある」に53.4%が回答しており、農泊自体には関心を有していることがうかがえた。また、「利用したことがなく、今後もあまり利用したくない」「利用したくない」と利用に否定的な回答についても、民泊(48.5%)・ゲストハウス(80.5%)に比べ農泊は43.7%とわずかに低いことが明らかとなった。

しかし、農泊を利用したことがあるという回答は3宿泊施設で最も少ない。そのため、農泊利用を促進するためにどのような条件が必要なのか、その利用条件について問うた(表2)。3宿泊施設において回答者が重視していた条件としては「宿がきれい」「スタッフの対応の良さ」「価格が安い」という点があげられた。農泊については、農泊の特徴でもある体験や郷土料理などについて、どの程度条件とするのかを問うたところ、体験77.7%、郷土料理88.3%と高い回答を得ており、農泊を選択する際には何らかの体験やその土地の味を堪能したいという意向が強いことがうかがえた。

5 おわりに

農泊を宿泊先として選択してもらうためにはその土地でしか体験できない食や体験メニューを展開することが改めて重要であることが明らかとなった。そのうえで、旅行先として農山漁村を選定し、農泊を選択してもらうためには宿としての魅力を高めることも重要と考える。参照：農林水産省農村振興局：「農泊の推進について」<<http://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/170203.html>>、2019年4月11日参照。

表1 旅行先決定時の重視項目属性(%) [MA]

	1位	2位	3位	全体
観光スポットが多い	51.5	17.5	16.5	85.4
レジャー施設が多い	1.9	8.7	4.9	15.5
お祭りなどイベントがある	1.0	3.9	5.8	10.7
自然が多い	1.0	6.8	7.8	15.5
買い物ができる	0.0	1.0	2.9	3.9
料理	18.4	39.8	17.5	75.7
宿(ホテル・旅館)	18.4	14.6	30.1	63.1
宿(その他)	0.0	1.0	1.0	1.9
交通アクセスが良い	3.9	1.9	6.8	12.6
その他	3.9	4.9	6.8	15.5

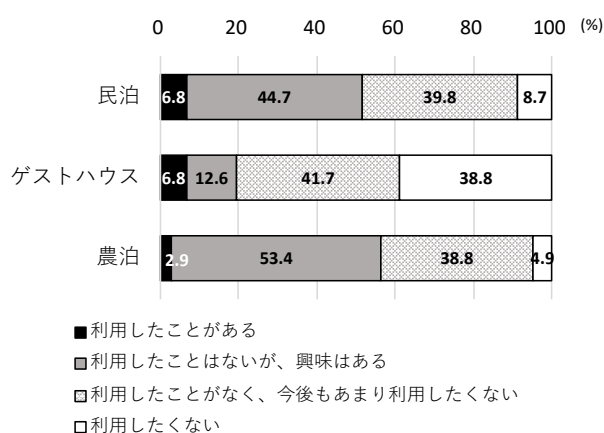


図2 各宿泊施設利用有無と利用意向
Fig.2 Experience in Using and Motivation to Use

表2 宿泊施設利用条件(%) [MA]
Table2 Accommodation Condition

	民泊	ゲストハウス	農泊
宿がきれい	74.8	40.8	65.0
スタッフの対応の良さ	25.2	41.7	52.4
地域の方と交流できる	1.9	13.6	9.7
街の雰囲気を味わえる	22.3	10.7	45.6
価格が安い	68.0	89.3	44.7
一棟貸しで自由に過ごせる	70.9	2.9	-
体験	-	-	77.7
郷土料理	-	-	88.3
交通アクセス	-	-	9.7
その他	8.7	1.9	1.0

* 「一棟貸しで自由に過ごせる」は民泊・ゲストハウスについてのみ設問を設定した
** 「体験」「郷土料理」「交通アクセス」については農泊のみ設問を設定した